

國際學界動向

「比較視野中的道教儀式」國際學術研討會」參加報告記

酒 井 規 史

二〇一五年十二月七日から九日の三日間、香港中文大學において「『比較視野中的道教儀式』國際學術研討會」(以下、研討會と略稱する)が開催された。筆者は研討會に参加する機会を得たので、その模様を報告することにしたい。なお、當會からは筆者のほか、松本浩一氏と丸山宏氏(ともに筑波大學)も参加し、研究報告と討論を行った。⁽¹⁾

このたびの研討會は、香港中文大學の人文學科研究所比較古代文明研究中心が主催し、香港の飛雁洞佛道社が後援をしたものである。同研究中心主任の蒲慕州氏(香

港中文大學教授、譚偉倫氏(香港中文大學教授、勞格文(John Lagerwey)、以下、ジョン・ラガウェイ)氏(香港中文大學教授)、呂鵬志氏(同研究中心研究員)が會議の發起人となっていたが、全體のオーガナイズは主にラガウェイ氏と呂鵬志氏によるものであろう。研討會の組織・運営においても兩氏の幅広い學識と人脈が活かされており、多様な分野の研究者が招聘されていた。⁽²⁾

この研討會の題目「比較視野中的道教儀式」は、少し意を補って譯せば「比較的な視點でみる道教儀式」となるであろう。この「比較」には、さまざまな時代・地域

や、それぞれの研究分野など、さまざまな視点と方法論で道教儀式を考察するという意圖がこめられていたようである。

また、研究報告の中には道教のみならず、佛教・民間信仰や少数民族の儀式を対象とするものも含まれていたが、これも道教との「比較」というテーマに沿って配置されたものと考えられる。道教儀式というテーマを足がかりに、中國宗教全體の見取り圖を再考できるようにプログラムが組まれているという印象を持った。

以下に今回の研討會のプログラムを紹介する。紙幅の都合で全ての報告の題目を記すことはできないので、全體の構成だけを紹介することにした⁽³⁾。

● 十二月七日

- ・ 開幕致辭
- ・ 主題發言 (一)
- ・ 第一場…現存道教儀式 (一)
- ・ 第二場…現存道教儀式 (二)

● 十二月八日

- ・ 專場…正一籙(「都功籙」の實物を用いた解説)
- ・ 影片放映及討論(ドキュメント映畫の上映と討論)
- ・ 主題發言 (二)
- ・ 第三場…古代道教儀式 (一)
- ・ 第四場…古代道教儀式 (二)
- ・ 第五場…佛教儀式及其與道教儀式之關係
- ・ 影片放映與講座(ドキュメント映畫の上映と解説)

● 十二月九日

- ・ 第六場…道教視野中的民間宗教儀式和少数民族宗教儀式
- ・ 第七場…道教儀式與文學和藝術
- ・ 地方道教儀式新書展示
- ・ 會議總結

今回の研討會では大きく分けて五つのパネルが組織さ

れ、三日間で合計二十人以上の研究者が多彩なテーマで報告を行った。以下、大まかに各パネルの内容を紹介したい。

はじめの二つのパネルは道教の儀式に焦点を当てたものであり、多くの研究報告がそこに配置されていた。

「現存道教儀式」はフィールドワークを主體とする研究を集めたパネルであり、現在の中國大陸(江西・福建・河北・江蘇)・臺灣(臺北・臺南)で行われている儀式に關する報告が行われた。⁽⁴⁾「古代道教儀式」は文献資料を主とする歴史的研究のパネルであり、六朝時代の陸修靜の儀式から、宋元時代の黃籙齋や各種の法術までをカバーしていた。また、籙の實物を展示しながら解説を行うコーナーも設けられており、寫本などの文物を重視する姿勢が感じられた。

上述したように、今回の研討會では各時代・各地域の道教儀式に關する研究を網羅し、それぞれの研究成果を比較・對照するというコンセプトがあり、この最初の二つのパネルはそれを具現化したものであろう。おそらく、

六朝時代の道教から研究を開始し、現地調査も多く経験している、オーガナイザーのラグウェイ氏の意向が強く反映していると思われる。

つづく二つのパネルでは、道教以外の宗教の儀式をあつかう報告が配置されていた。「佛教儀式と道教の關係」では、施餓鬼と普度の關係・佛道の要素が混在した科儀書・葬送儀禮を題材に、佛教と道教の儀式の交渉が考察された。「民間宗教と少數民族の儀式」では、羅教・梅山教・ヤオ族の儀式に關する報告がなされ、道教儀式を中國宗教全體の中で相對化しようという試みと思われる。最後のパネル「道教儀式と文學・藝術」では、步虛詩・明清の白話小説との關係・湖南の神像というテーマがあつかわれた。道教儀式を多角的に考察するという研討會の意圖を反映したものであろう。

また、初日と二日目の夜には道教儀式のドキュメント映畫の上映も行われ、映像記録にも目配りがなされていた。上映された映畫はそれぞれ民間信仰と融合した福建の事例(『天堂無聊』)、北京白雲觀の全眞教の儀式(『斗

姥朝科(北京白雲觀全真道禮斗科儀)」、上海の正一教の儀式(『斗姥奏告法—江南正一派道教告斗科儀—』)が主題であり、ことなる地域・流派の儀式をあつかっていた。ここでも、「比較」というコンセプトが貫かれていると感じられた。

以上、研討會の様子を急ぎ足で紹介した。三日間の會期中に報告された内容は非常に多彩であり、筆者も研討會の内容をすべて消化しきれないのが率直なところである。最終日には總合討論の時間が設けられていたものの、研討會の参加者が多いせいもあり、議論はあまり深まらなかったと感じられた。

しかし、これだけの大きな規模で道教儀式の研究者が一堂に會すること自体がたいへん貴重であり、各分野の研究者が情報を交換できたことは大きな成果であろう。筆者も隣接分野の多彩な研究報告を聞くことでさまざまな啓發を受け、研討會の題目どおり視野を広めることができた。

道教の儀式については研究上の空白が多く残されており、中國大陸における現地調査はまだ網羅的に行われておらず、歴史的な文獻研究にも不十分な点が多い。それぞれの地域・研究分野における調査・研究を深化させ、それらを總合する作業はこれからの課題であろう。

なお、今回の研討會の報告をまとめた論文集の出版が計畫されている。道教、ひいては中國宗教の儀式に關心のある方は、ぜひ手に取って内容を確認していただきたい。

註

(1) それぞれの發表題目は以下のとおり。松本浩一氏「佛敎施餓鬼和道教普度」、丸山宏氏「比較視野中的瑤族宗教儀式—以瑤族儀式文獻『大戒文』和『大齋祕語』爲中心的探討」、筆者「南宋道敎的加封儀式—以『三茅眞君加封事典』爲考察中心—」。

(2) 今回、招聘していただいたラガウエイ氏と呂鵬志氏にはこの場を借りてあらためてお禮申し上げたい。

(3) 以下に述べるように、今回の研討會の報告をもとに、論文集の出版が豫定されている。詳細は論文集をご覧い

ただきたい。

(4) この研討會は、二〇一一年にやはり香港中文大學で開催された『地方道教儀式實地調査比較研究』國際學術研討會の續きともいえる。この研討會はフィールドワークによる研究報告をメインにしたものであったが、今回の研討會は研究方法・研究分野の範囲をさらに擴張したものとええよう。前回の研討會の成果は呂鵬志・勞格文主編『地方道教儀式實地調査比較研究』國際學術研討會論文集(新文豐出版公司、二〇一三年)として出版されている。